

キャッシュレス決済について 消費者に知っていただきたいこと

2024年2月
商務・サービスグループ キャッシュレス推進室

本日の話題提供

消費者に知っていただきたいこととして、3つのポイントで話題提供

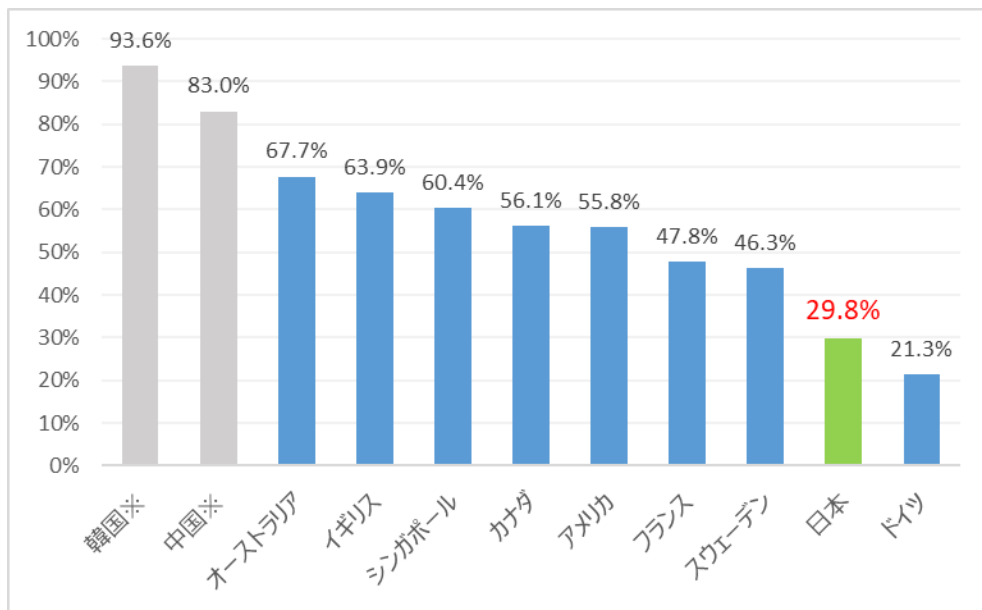
キャッシュレス決済に関して、若年者・高齢者等に知っておいていただきたいや、関連する取組として、以下の3つをポイントに情報提供します。

- ①消費者の不安解消に向けたキャッシュレス推進室の取組
- ②キャッシュレス推進の社会的意義
- ③キャッシュレスを活用した家計管理

日本のキャッシュレスの現状と目標

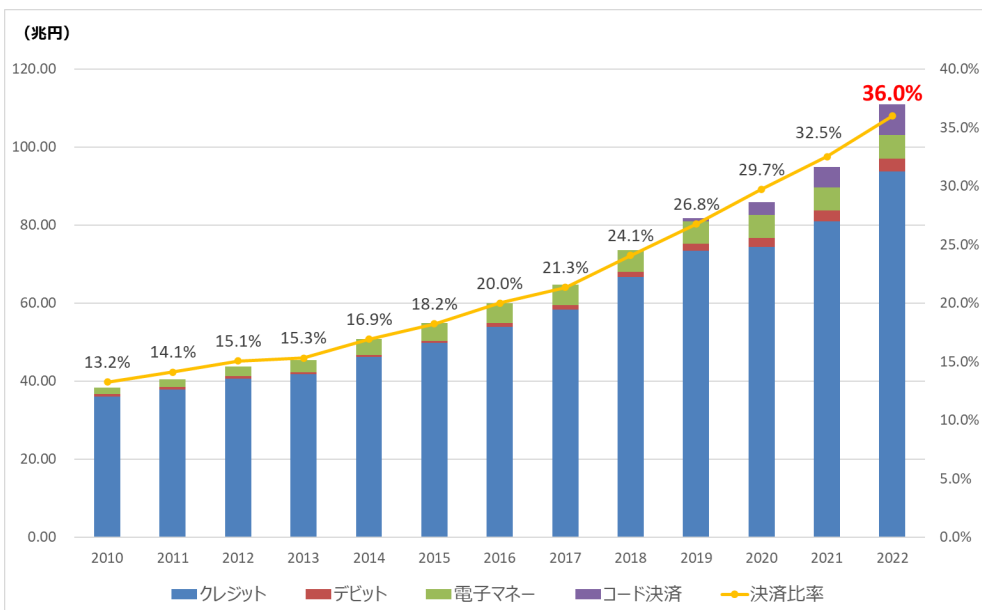
- キャッシュレス決済比率を伸ばし2025年までに4割程度、将来的には世界最高水準の80%を目指す。
- 日本のキャッシュレス決済比率は36%まで成長。

世界各国のキャッシュレス比率（2020年）



(出典) (一社) キャッシュレス推進協議会「キャッシュレス・ロードマップ2022」より
世界銀行「Household final consumption expenditure (2020年)」、BIS「Redbook」の非現金手段による年間支払金額から算出
※韓国、中国に関しては、Euromonitor Internationalより参考値として記載

我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移（2022年）



(出典) 民間最終消費支出 : 内閣府「国民経済計算」(名目)
クレジット : (一社) 日本クレジット協会調査(注) 2012年までは加盟クレジット会社へのアンケート調査結果を基にした推計値、2013年以降は指定信用情報機関に登録されている実数値を使用。
デビット : 日本デビットカード推進協議会(～2015年)、2016年以降は日本銀行「決済システムレポート」・「決済動向」
電子マネー : 日本銀行「決済動向」
コード決済 : (一社) キャッシュレス推進協議会「コード決済利用動向調査」

「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日閣議決定)

【抜粋】2025年6月までに、キャッシュレス決済比率を倍増し、4割程度とすることを目指す。

「キャッシュレス・ビジョン」(平成30年4月11日 キャッシュレス検討会策定)

【抜粋】大阪・関西万博(2025年)に向けて、「支払い方改革宣言」として「未来投資戦略2017」で設定したキャッシュレス決済比率40%の目標を前倒し、高いキャッシュレス決済比率の実現を宣言する。さらに将来的には、世界最高水準の80%を目指していく。

消費者はキャッシュレスを利用しない一因は“不安”にある

消費者や使いすぎの不安やセキュリティ不安からキャッシュレスを躊躇していると考えられる

キャッシュレスの利用意向に直結する消費者インサイトの検証サマリー (キャッシュレス推進協議会「消費者インサイト調査 (2021年度版)」)

※色が濃いほど、顕著なもの

一般的な意識 ※CL利用意向に 依らず共通したもの	決済手段をまとめた 複数のCLを使い分けたくない	過去のネガティブな経験による抵抗感 使いすぎた経験がある	セキュリティ・プライバシー懸念 不正利用への不安
	アクセプタンスの確認が面倒	店舗にキャッシュレス利用を 断られた経験がある	個人情報提供への抵抗感
	周囲への迷惑を懸念 自分の不手際で 周囲を待たせたくない	店舗側の不手際であっても 周囲をまたせたくない	購買データ提供への抵抗感
CL利用意向 引き上げの きっかけになる 意識 ※CL利用意向が低い 層で特に強いもの	現金の不便を感じない 現金利用による面倒への慣れ	使いすぎ懸念 CLは使いすぎてしまう	接触機会の回避 現金や店員との接触が 気にならない
	現金が便利	CLにより家計管理が複雑化する	その他 発行店舗でのみ利用したい (ハウスカード利用)
	キャッシュレスへの関心不足 CLのメリットの実感不足	周りで使われていない、使えない 知り合いが使っていない	いつも現金を利用している店舗で CLを使い始めることに抵抗がある
	CLへの興味不足	買い物の際に、 周囲がCL決済を利用していない	E.登録が面倒
	CLへの理解不足	普段利用している店舗が CL決済を導入していない	

キャッシュレスに対する不安解消に向けた取組～動画・リーフレットの作成～

リーフレット・動画を作成し、消費者の不安解消に向けた取組を推進

- ・安心・安全に関するリーフレットや動画を作成し、経済産業省のホームページで公開
- ・消費者自身での対策が必要なことも周知

キャッシュレスに関する説明資料等

- ・キャッシュレスの推進は、消費者に利便性をもたらし、事業者の生産性向上につながる取組です。消費者には、消費履歴の情報のデータ化により、家計管理が簡易になる、大量に現金を持ち歩かずに買い物ができるなどのメリットがあります。事業者には、レジ締めや現金取り扱いの時間の短縮、キャッシュレス決済に慣れた外国人観光客の需要の取り込み、データ化された購買情報を活用した高度なマーケティングの実現などのメリットがあります。
- ・経済産業省ではキャッシュレスの紹介・普及を目的として、消費者向け、事業者向けの説明資料やパンフレット、動画等を公表しています。
- ・また近年、普及が進むキャッシュレス決済の安全と安心を守るために、様々なセキュリティ対策が行われています。一方でご自身での対策も必要です。
- ・経済産業省では実施されている主なセキュリティ対策や利用の際の注意点を分かりやすく紹介したリーフレット、動画を公表しています。

●動画

[便利で安全なキャッシュレス（ロング版）](#)

[便利で安全なキャッシュレス（ショート版）](#)



[ひろがるキャッシュレス（消費者向け動画）](#)

[つながるキャッシュレス（事業者向け動画）](#)

[キャッシュレス説明動画（消費者向け）](#)

[キャッシュレス説明動画（事業者）](#)

●キャッシュレスに関する調査資料

③ キャッシュレスリーフレット&パンフレット

⑤ [消費者向けリーフレット](#) (N)

⑥ [店舗向けリーフレット](#) (New!)

便利で安全なキャッシュレス

近年、多くの手段が登場し使えるお店も増えているキャッシュレス決済。その安全と安心を守るための、様々なセキュリティ対策をご紹介します。

本人による取引を認証するための技術



- ・お店でカード支払をする際は、取引内容に応じて暗証番号により、認証しています。
- ・コード決済などは、スマホ端末上の認証を用いて、認証しています。

不正な取引を起こさないための技術

- ・取引データは常に監視されており、普段のご利用とは明らかに異なると思われる支払は、不正取引として自動でブロックされます。
- ・スマホアプリ等を通じて、カード利用のON/OFFを設定できるカードもあります。



カード番号を守るための技術



- ・原則として、決済を行ったお店にカード番号の情報が残ることはありません。
- ・最近ではナンバーレスカードやタッチ決済も増えており、他の人にカード番号を見られる心配も少なくなっています。

※一部の決済手段では上記の対策が行われていない場合もあります

ご自身での対策も忘れずに

利用明細を確認。暗証番号は他人には絶対に教えない。
すぐわかるような場所に暗証番号を記載しない。
万が一カードをなくした時は、すぐにカード会社に連絡を行ってください。（カードの裏面に連絡先の記載あり）



万が一の不正利用時にも補償制度あり

左記の対策を行い、キャッシュレスを正しく使っていれば、原則として補償が受けられます。
※ただし、決済手段によっては補償が受けられない場合がありますので、利用規約等をご確認ください



さらに、お店にも多くのメリットがあるので、安心してお使いいただけます



キャッシュレスによるお店のメリット

- ① レジ時間が約35%短縮※
- ② 現金管理・両替コストが約67%削減※
- ③ 現金の取扱が減り不正・盗難リスクが軽減
- ④ 売上・会計データの管理が大幅に効率化

※令和3年度「キャッシュレス決済の中小店舗への更なる普及促進に向けた環境整備検討会」とりまとめ資料より



便利で安全なキャッシュレスの普及拡大に取り組んでいます。
経済産業省 商務情報政策局
消費・サービスグループ キャッシュレス推進室
〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号



キャッシュレスに対する不安解消に向けた取組～政府広報の活用～

2023年9月には消費者の不安解消に向け、政府広報も活用

- ・政府広報（内閣府）にキャッシュレス決済を取り上げてもらい、キャッシュレスをPR
- ・コンテンツの内容にキャッシュレスの不安に対する回答を掲載し、消費者の不安解消に努めている

[トップページ](#) > [お金・消費](#) > [お金・消費（その他）](#) > キャッシュレス決済を活用して生活を便利に！

お金・消費（その他）

2023年9月4日

キャッシュレス決済を活用して生活を便利に！

[#お役立ち記事](#) [#キャッシュレス決済](#)

シェアする

📧 ポストする

f シェアする

📞 LINEで送る



Point

キャッシュレス決済にすることで、買い物のレジでの“ちょっとした不便”が解消されます！

出典：「政府広報オンライン」<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202309/1.html>

4 キャッシュレスの不安に関するQ&A

キャッシュレスの便利な点をお伝えしてきましたが「やっぱりそれでも利用するのは不安」というかたもいると思います。よくある質問や不安について、Q&A形式でご紹介します。

Q. お金を使い過ぎてしまわないか、心配です

A. サービスによっては、クレジットカードを利用すると、利用情報がメールで届くものや、インターネットやアプリでその月の利用実績を確認できるものがあります。これらを利用すれば、本人の了解を得て別居している親やこどもの利用状況を確認することができます。

また、プリペイド式のキャッシュレス決済であれば、事前に入金（チャージ）した金額の範囲内での利用となるので、使い過ぎることがなく、安心です。チャージ金額がなくなった場合はそれ以上利用ができません。

そのほか、**家計簿アプリとキャッシュレス決済手段を連動**させることで、自分がいくら使っているのかを**自動で見える化**することができます。

Q. セキュリティはどんな対策がされていますか？

A. 消費者の安全と安心を守るために様々なセキュリティ対策が施されています。クレジットカードでは、**本人による取引を認証するための技術や、不正な取引を起こさないための技術、カード番号を守るための技術**などを用いた対策が行われています。

Q. セキュリティ面で、自分自身で気を付けないといけないことはありますか？

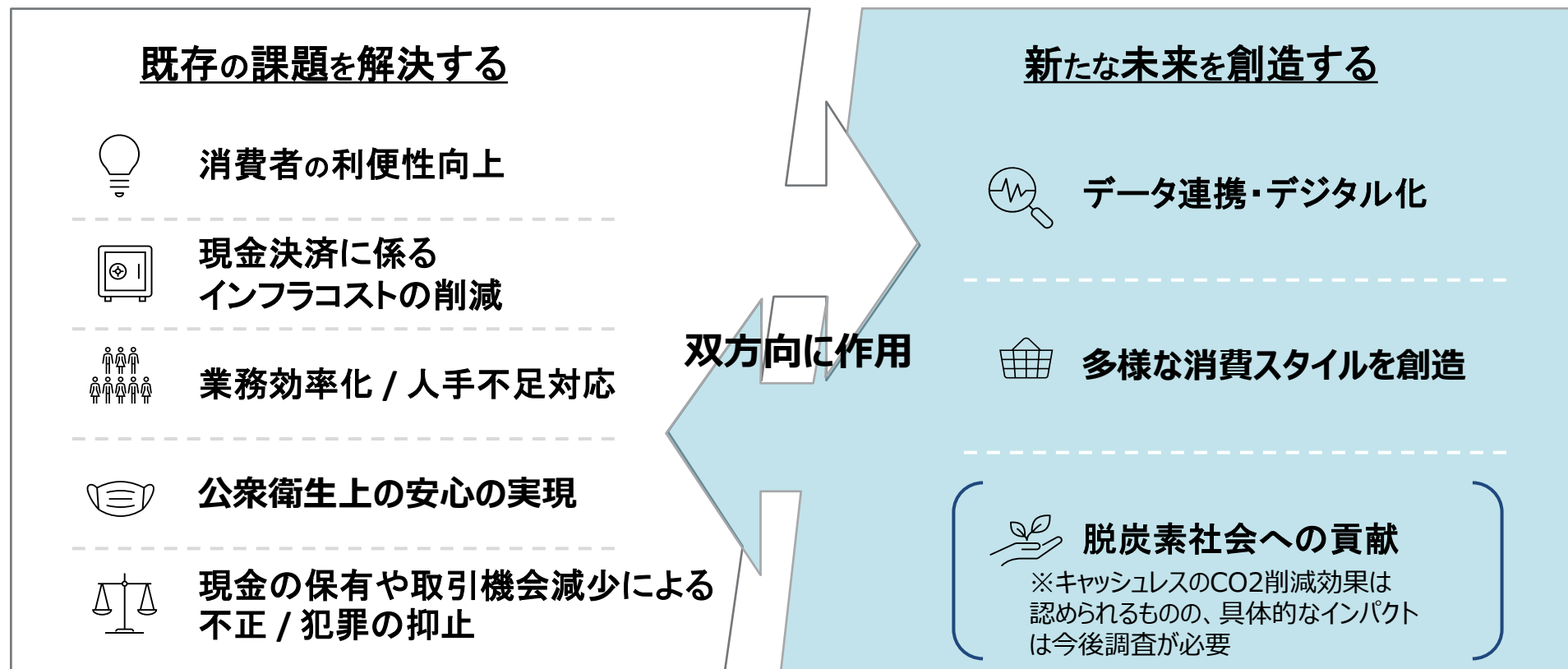
A. 偽のメールやSMSなどで誘導されたサイトにカード番号や暗証番号、セキュリティコードなどを求められても教えないなど、ご自身での対策が大切です。万が一、身に覚えのな

キャッシュレス推進の社会的意義 | 概念図

キャッシュレス化を実現することで、「既存の課題解決」×「新たな未来を創造」する行動変容を喚起することができる

キャッシュレス推進の意義

～「人々と企業の活動」に密接に関わる「決済」を変革することで、既存の課題を解決し、新たな未来を創造する～



双方向の関係性:「既存の課題解決」が新たな未来の創造に寄与し、「新たな未来の創造」が既存の課題も解決する関係性を示す



CL化の推進により、消費者の生活は、より便利なものとなる

キャッシュレス社会 における消費行動

外出



- 財布を持ち歩く手間の削減
- 銀行やATMでの現金の引き落としの手間を削減
- 現金残高を数える手間の省力化



買い物 / 支払



- 個人間の取引における手間を省力化
- 個人間の取引における時間/空間上の制約からの解放

- 面倒な家計簿への転記を削減
- 消費動向の可視化・分析を効率化





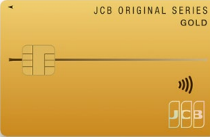
家計管理

現金利用と比較して、キャッシュレス決済は、消費者の利便性を向上させることができる

キャッシュレス決済の定義と決済手段

前払いや即時払いを活用することで、使いすぎを未然に防ぐことが可能

- ・主なキャッシュレス手段を支払のタイミングで分類すると、「前払い」「即時払い」「後払い」に分類される
- ・**前払い**は事前に入金した範囲内での利用となるため、**使いすぎ防止や残高管理が可能**
- ・コード決済は、事前入金の前払い方式の他に、クレジットカードと紐付ける後払いもあり、注意が必要

	前払い		即時払い	後払い
主なサービス例	電子マネー 	コード決済 	デビットカード 	クレジットカード 
特徴	利用金額を事前にチャージ ※クレジットカードに紐付けの場合は後払い		リアルタイム取引	後払い、与信機能
規制法令	資金決済法		銀行法	割賦販売法
監督官庁	金融庁		金融庁	経済産業省

キャッシュレスの目指す姿 | 個人⇔事業者

「個人」の消費体験や家計管理が高度化し、データに基づき行動変容を起こす

「個人(消費者)」視点で見る「事業者(店舗)」との関わりにおけるキャッシュレス社会

購買



シームレスな消費体験

- 商品/サービスを選択した後で、レジやチェックアウトを行い、多様な決済手段から選択し支払を行う



- 商品/サービス選択後に、特別な行動を行うことなく自動的に支払が完了する（商品を手に取って店を出るだけ、等）
- どの決済手段も、同じ認証手法で利用可能（生体認証すべて利用可）等

家計管理



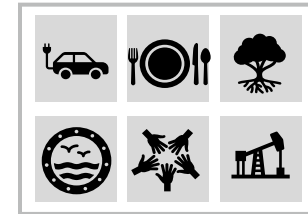
スマートな支出管理

- 口座入出金を統合管理する家計管理サービスはあるが、リアルタイムに反映されず、当該サービスに非対応の決済事業者も存在



- 家計管理サービスと全ての金融機関/決済事業者とがデータ連携し、全口座の情報がリアルタイムに把握可能
- 連携されたデータが自動的に可視化され、個人のスマートフォンで支出状況をリアルタイムに把握可能、等

日常の行動



データに基づく行動変容

- 決済データの利活用が十分に進んでおらず、決済データと他のデータの組み合わせも十分できていない



- 過去のデータとリアルタイムのデータに基づくアクションのレコメンドが行われる（例：週末のランチ外食候補として、健康状態に基づくお店のレコメンドがされる、等）
- 決済データからCO2排出量が計算され、環境配慮アクションのレコメンドが行われる、等

現状

目指す姿